

液部表面は平滑であり、バイオフィームが定着しにくく、除去されやすいことが推察された。

これらの解決策として、集毛器網は毎日タワシで物理的に洗浄した後、消毒用エタノール噴霧で殺菌する方法が、またゴムパッキンはバイオフィーム付着の少ない、殺菌・洗浄が可能なテフロン加工パッキンに交換することが強く薦められる。

(本研究におけるアメーバ検査の実施と、ご助言をいただいた国立感染症研究所・寄生動物部の遠藤卓郎、八木田健司、泉山信司、下河原理江子の各先生方と、走査電子顕微鏡撮影でご協力いただいた藤井明氏に深謝します。)

#### 参考文献

- 1) 大畑克彦, 鈴木光彰, 江塚安伸, 曾布川尚民, 杉山寛治 (2004): 実験用循環式浴槽水浄化装置を

用いた自然汚染, 無殺菌状況下におけるレジオネラ属菌の消長. 防菌防黴誌, 32, (12), p.593-600

- 2) K. Ohata, K. Sugiyama, M. Suzuki, R. Shimogawara, S. Izumiyama, K. Yagita, T. Endo: Growth of Legionella in Non-sterilized, Naturally Contaminated Bath Water in a Facility Which Mechanically Circulates and Purifies the Water. Legionella: State of the Art 30 Years after Its Recognition. (in press)
- 3) K. Sugiyama, K. Ohata, M. Suzuki, R. Shimogawara, S. Izumiyama, K. Yagita, T. Endo: Inhibition of Legionella Growth in Circulating Bathing Water by Filter Refreshment Method Using High Concentration Chlorine. Legionella: State of the Art 30 Years after Its Recognition. (in press)
- 4) 杉山寛治, 大畑克彦, 鈴木光彰, 徳山千佳, 倉重英明, 江塚安伸, 曾布川尚民 (2005) 循環濾過式浴槽における濾過器内塩素循環殺菌法のレジオネラ除菌・増殖抑制効果. 日本防菌防黴学会第32回年次大会要旨集, p.146

